

## 事例6 自動給餌機導入で時間を確保！

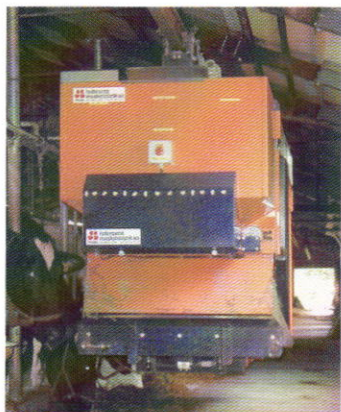
乳牛の食い込み量が増えたことで、給餌に時間がかかるようになり、平成13年7月に自動給餌機を導入しました。これにより、時間に余裕ができました。

### 経営概要

労働力	2人
飼料作物面積	60ha
乳牛頭数 (うち経産牛)	120頭 75頭
出荷乳量	700t

### 導入のきっかけ

- 飼養管理改善で乳量が増加、それとともに採食量も増え、飼料給与に時間がかかるようになった。
  - 家でゆっくりできる時間がほしかった。
- …これらのことから自動給餌機の導入を決意した。



タンク容量	
サイレージ	1,800ℓ
配合 (タンクは3つ)	160ℓ 160ℓ 140ℓ
ミネラル	30ℓ

### <給与回数・時間の変化> (導入前)

サイレージを1日4回給与していた。2人で給餌や掃除などで、延べ6～7時間かかっていた。



### (導入後)

自動給餌機により給与回数は1日8回に増えた。作業は掃き寄せ・掃除など、1日延べ2時間に短縮された。

### 導入にあたっての費用

内容	金額
自動給餌機本体	700万円
サイレージボックス (14㎡)	240万円
コンベア	70万円
操作盤一式	60万円
その他 (設置料、手数料など)	100万円
牛舎改造費 (写真参照) +調整室設置	830万円
電気工事代、換気扇ほか	100万円
合計	約2,100万円

### 牛舎改造状況



給餌機が通れるように、通路を広くしました。

※自動給餌機導入にあたって、同時に牛舎改造も実施しました (写真上)。この他に、モニタ (=自動給餌機の異常を携帯電話へ転送) の設置を予定しています (30万円)。

・資金対応は農協・サポート資金、電気工事・換気扇は自己資金。

### 導入後の感想



メリットはなんといっても、サイレージや配合の給与を自動給餌機に任せられることです。家で、ゆっくり落ち着いてご飯を食べる時間ができたことがうれしい。

デメリットはありません。でも、最初は牛が慣れなかったし、機械調整も大変でした。慣れるまではちょっと時間が必要ですね。

## 事例7 低コスト施設の工夫でうるおいある酪農

低コストでフリーストール牛舎を建設、既存牛舎をアプレストパーラーに改造、獣医師に牛群マネジメントを委託等の取り組みにより、生乳と労働の生産性を改善した事例です。省力化しながら所得を拡大させ、ゆとりとうるおいある酪農を実践しています。

### 経営概要

労働力	4人
飼料作物面積	86ha
乳牛頭数 (うち経産牛)	160頭 90頭
出荷乳量	742t



低コストフリーストール牛舎

### DH型ハウスで低コスト牛舎を建設

平成10年8月、規模拡大に伴う増頭、管理作業の効率化を目的に、繋留式牛舎からフリーストールへ移行しました。

DH型ハウス(60床×2棟)を採用し、建設コストは、約15千円/㎡と安価で、無理のない投資を心掛けています。

搾乳牛の群分けは泌乳量レベルにより2群、乾乳牛は周産期疾病対策で、前期・後期の2群で管理しています。飼料はTMRへの変更により、乾物摂取量が向上し、牛群の日平均乳量30kg以上を達成しています。

### 既存繋留牛舎改造による

#### アプレストパーラーの導入

労働時間の短縮を図るため、平成12年8月、既存の繋留牛舎(対頭式60床)を8頭ダブル式のアプレストパーラー舎に自力改造しました。建設コスト(ミルカー含む)は、約40千円/㎡。

搾乳作業が効率化でき、搾乳時間が短縮しました。



改造アプレストパーラー



コンクリートスラリーストア

### スラリーによる糞尿処理

平成12年12月、畜産環境リース事業により、コンクリートスラリーストアを建設し、併せてスラリートンカー(15,000ℓ)も導入しました。スラリーストアの建設コストは約13千円/㎡。糞尿処理を堆肥方式からスラリー方式に移行したことにより、経産牛90頭の年間糞尿量の処理は、わずか2週間で圃場散布が終了します。糞尿処理が効率化し、肥料費も減少しています。